

令和4年度滝沢市の全体財務書類(概要版)

市には一般会計のほか、特定の行政サービスを目的とした特別会計や事業会計があり、会計間で出資金や繰出金、負担金・補助金等の授受(内部取引)を行っています。全体財務書類とは、各会計を連結してひとつの行政サービス実施主体としてとらえ、市全体の財務状況を総合的に把握することを目的として作成するものです。

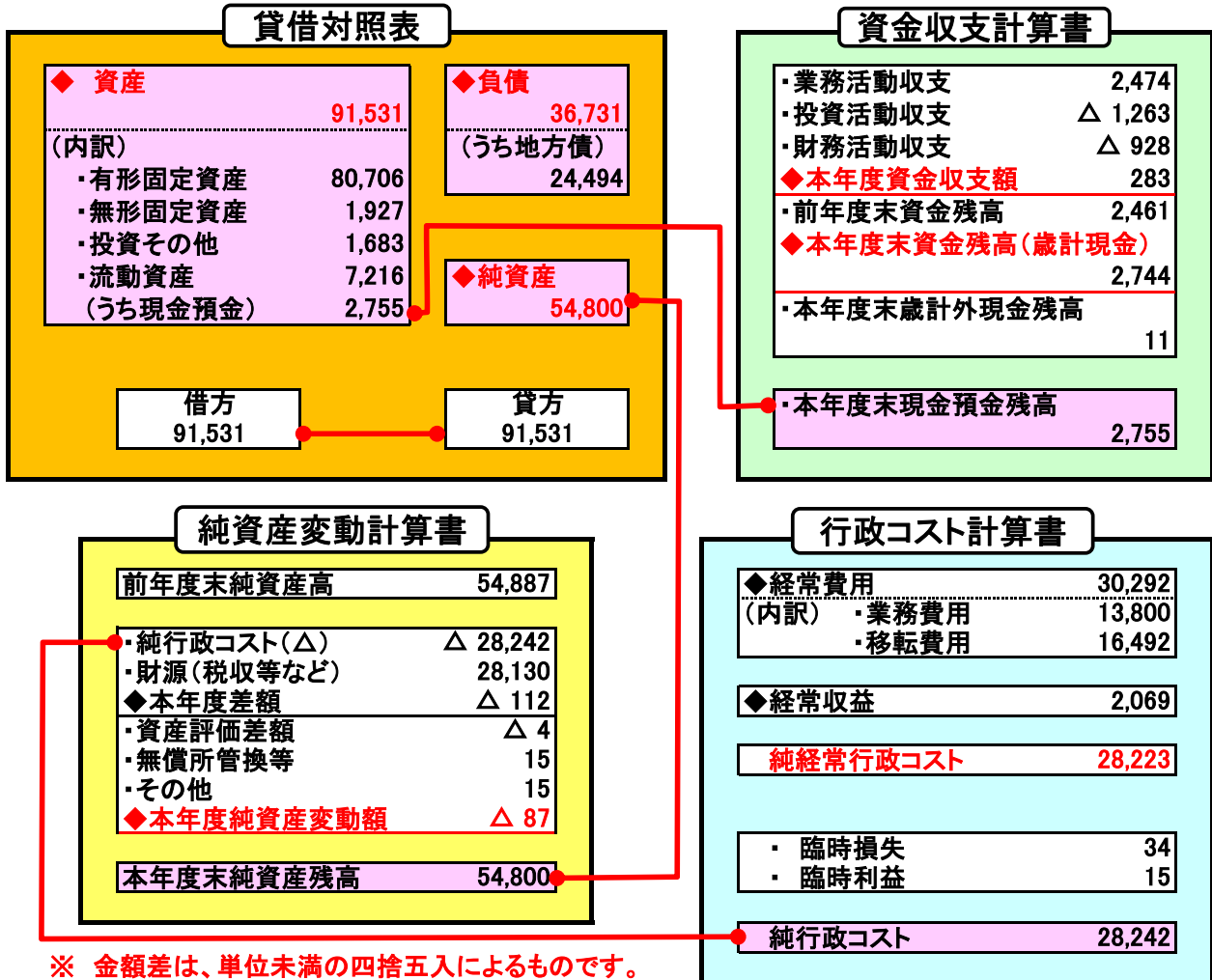
全体財務書類の作成にあたっては、連結対象会計間の内部取引を相殺消去しています。

【金額の会計ごとの内訳】 (単位:百万円)	貸借対照表				行政コスト計算書			純資産変動計算書	資金収支計算書	
	資産	負債	うち 地方債	純資産	経常 費用	経常 収益	純経常 行政コスト	財源	資金 収支	資金 残高
全体財務書類を構成する会計 (連結対象会計)										
一般会計	63,504	18,728	17,597	44,776	20,846	658	20,188	19,676	△ 160	745
国民健康保険特別会計	965	5	0	960	4,721	13	4,708	4,717	△ 4	72
後期高齢者医療特別会計	7	0	0	7	496	1	494	495	0	6
介護保険特別会計	438	10	0	428	3,966	0	3,966	4,042	33	93
介護保険介護サービス事業特別会計	0	0	0	0	9	8	0	0	0	0
水道事業会計	10,754	4,551	1,999	6,203	840	889	△ 49	143	178	1,318
下水道事業会計	16,878	13,437	4,899	3,441	976	525	450	591	238	510
相殺消去	△ 1,014	0	0	△ 1,014	△ 1,561	△ 26	△ 1,535	△ 1,535	0	0
合計(全体財務書類計上額)	91,531	36,731	24,494	54,800	30,292	2,069	28,223	28,130	283	2,744

※合計欄の金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

令和4年度滝沢市の全体財務書類 (財務書類4表の相互関係)

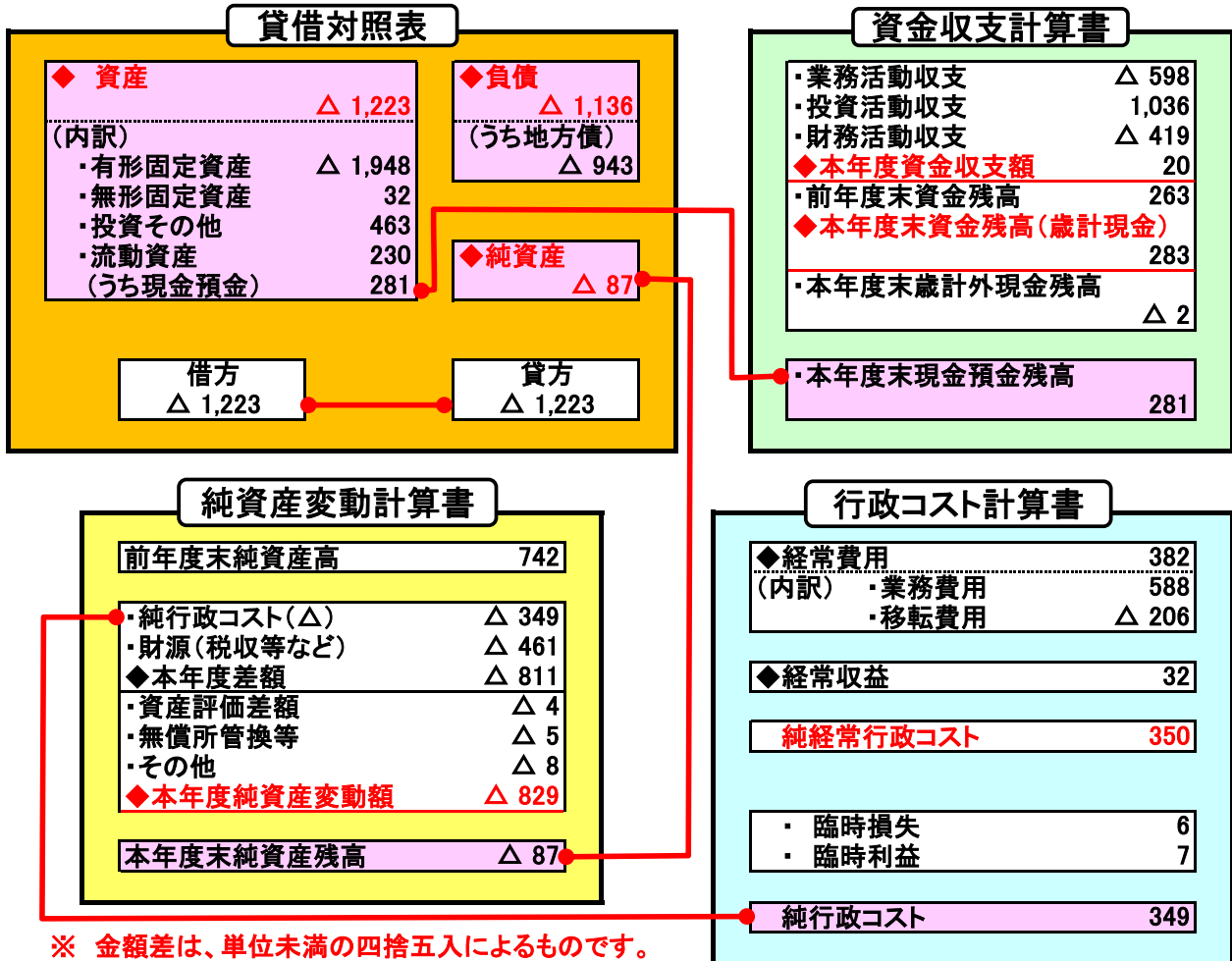
(単位:百万円)



※金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

令和4年度滝沢市の全体財務書類 (対前年度増減額)

(単位:百万円)



※ 金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

【金額の会計ごとの内訳 (対前年度増減額)】

(単位:百万円)

全体財務書類を構成する会計 (連結対象会計)	貸借対照表				純資産変動計算書			資金収支計算書		
	資産	負債	うち 地方債	純資産	経常 費用	経常 収益	純経常 行政コスト	財源	資金 収支	資金 残高
一般会計	△ 1,289	△ 785	△ 721	△ 504	555	△ 25	579	△ 401	△ 493	△ 160
国民健康保険特別会計	10	1	0	9	△ 151	△ 18	△ 133	△ 120	△ 2	△ 4
後期高齢者医療特別会計	1	0	0	1	54	0	54	53	△ 2	0
介護保険特別会計	77	1	0	76	△ 30	110	△ 140	59	152	33
介護保険介護サービス事業特別会計	0	0	0	0	1	0	1	0	△ 1	0
水道事業会計	99	△ 112	△ 60	211	24	△ 13	37	△ 16	122	178
下水道事業会計	△ 90	△ 241	△ 161	150	△ 14	△ 4	△ 10	1	243	238
相殺消去	△ 30	0	0	△ 30	△ 56	△ 19	△ 37	△ 37	0	0
合計(全体財務書類計上額)	△ 1,222	△ 1,135	△ 943	△ 87	382	32	350	△ 462	20	283

※ 合計欄の金額差は、単位未満の四捨五入によるものです

● 令和4年度の概況

【貸借対照表】

資産91,531百万円に対して負債36,731百万円(対資産比40.1%)となり、資産から負債を差し引いた正味資産としての純資産は54,800百万円(対資産比59.9%)となりました。

資産の内訳は、固定資産84,316百万円(対資産比92.1%)、流動資産7,216百万円(対資産比7.9%)で、主な固定資産には、一般会計のインフラ資産(道路・公園に係る土地・工作物等)が31,999百万円(対資産比35.0%)、水道及び下水道事業会計のインフラ資産(上下水道施設等)が23,941百万円(対資産比26.2%)があります。

負債の内訳は、固定負債34,433百万円(対負債比93.7%)、流動負債2,298百万円(対負債比6.3%)で、地方債が24,494百万円、水道及び下水道事業会計の繰延収益(長期前受金)が10,866百万円と、負債全体に占める割合はそれぞれ66.7%、29.6%となっています。

【行政コスト計算書】

経常費用30,292百万円に対して経常収益2,069百万円となり、経常費用から経常収益を差し引いた純経常行政コストは28,223百万円となりました。これに臨時損失から臨時利益を差し引いた額を加えた純行政コストは28,242百万円となりました。なお、経常収益には上下水道使用料が計上されますので、水道及び下水道事業会計の行政コストは他会計と比べて少ない額となっています。

【純資産変動計算書】

純行政コストから当年度の税込等15,855百万円、及び国県等補助金12,245百万円を控除した本年度差額は112百万円のマイナスとなりました。この本年度差額に資産評価差額、無償所管換等、その他を加除した本年度純資産変動額は87百万円のマイナスとなった結果、本年度末純資産残高は54,800百万円となりました。

【資金収支計算書】

業務活動収支は2,474百万円の黒字、投資活動収支は1,263百万円の赤字、財務活動収支は928百万円の赤字となり、3つの活動収支を合わせた本年度資金収支額は283百万円の黒字となりました。この額に、前年度末資金残高(前年度の繰越金)2,461百万円を加えた本年度末資金残高(本年度の歳入歳出差引額)は2,744百万円となり、歳計外現金の前年度末残高及び当年度中の増減額を加えた、本年度末現金預金残高(貸借対照表の流動資産の「現金預金」計上額)は2,755百万円となりました。

● 令和4年度の概況(対前年度増減額)

【貸借対照表】

前年度に対して、資産は1,223百万円減少(Δ 1.3%)し、負債は1,136百万円減少(Δ 3.0%)したことから、結果として資産から負債を差し引いた純資産は87百万円減少(Δ 0.1%)しました。

資産では、事業用資産の建物及びインフラ資産の工作物の減価償却等により固定資産は1,453百万円減少(Δ 1.7%)し、基金の増加等により流動資産は230百万円増加(+3.3%)しました。

負債では、地方債の償還等により固定負債は1,195百万円減少(Δ 3.4%)し、未払金の増加等により流動負債は60百万円増加(+2.7%)しました。

【行政コスト計算書】

前年度に対して、経常費用は382百万円増加(+1.3%)し、経常収益は32百万円増加(+1.6%)した結果、経常費用から経常収益を差し引いた純経常行政コストは350百万円増加(+1.3%)しました。また、純行政コストは349百万円増加(+1.3%)しました。

【純資産変動計算書】

前年度に対して、純行政コストは349百万円増加(+1.3%)した一方、財源としての税込等は395百万円増加(+2.6%)し、国県等補助金は857百万円減少(Δ 6.5%)したこと等により、本年度純資産変動額は前年度が742百万円のプラスであったのに対して、令和4年度は87百万円のマイナスとなりました。(前年度との差額 Δ 829百万円)

【資金収支計算書】

前年度に対して、業務活動収支は598百万円のマイナス(Δ 19.5%)、投資活動収支は1,036百万円のプラス(+356.2%)、財務活動収支は419百万円のマイナス(Δ 143.7%)となった結果、本年度資金収支額は20百万円のプラス(+7.6%)となりました。

全体貸借対照表

(令和5年3月31日現在)

科目	金額	科目	金額
【資産の部】		【負債の部】	
固定資産	84,316百万円	固定負債	34,433百万円
有形固定資産	80,706百万円	地方債	22,618百万円
事業用資産	24,523百万円	その他※2	11,815百万円
土地	7,680百万円	流動負債	2,298百万円
立竹木	2,116百万円	1年内償還予定地方債	1,876百万円
建物※1	13,511百万円	その他※2	422百万円
工作物※1	1,206百万円	負債合計	36,731百万円
その他※2	10百万円	【純資産の部】	
インフラ資産	55,940百万円	固定資産等形成分	88,558百万円
土地	15,646百万円	余剰分(不足分)	△ 33,758百万円
建物※1	245百万円		
工作物※1	38,574百万円		
その他※2	1,475百万円		
物品※1	243百万円		
無形固定資産	1,927百万円		
投資その他の資産	1,683百万円		
うち基金	1,342百万円		
流動資産	7,216百万円		
うち現金預金	2,755百万円		
うち財政調整基金	3,159百万円		
うち減債基金	1,083百万円		
資産合計	91,531百万円	純資産合計	54,800百万円
		負債及び純資産合計	91,531百万円

※ 理解しやすくするために実際の表を調整しています。

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

※1 「建物」、「工作物」、「物品」の金額は、減価償却累計額控除後のものです。

※2 「その他」の金額は、各区分で示している勘定科目以外の合計です。

「貸借対照表」とは、会計年度末の市の財政状況についての情報を示すもので、左右の合計額が等しくなり、資産と負債のバランスを把握することが容易となっています。

◆資産

市が行政サービスを提供するために保有し、あるいは将来サービスを提供するために用いることができる資源のことです。

・事業用資産

庁舎、学校、コミュニティセンターなどインフラ資産以外の有形固定資産

・インフラ資産

道路・公園など(一般会計)、**上下水道施設(事業会計)**

・物品

・無形固定資産

商標権など

・投資その他の資産

有価証券、出資金・出損金、特定目的基金、長期延滞債権など

・流動資産

現金預金、財政調整基金、減債基金(満期)

◆負債

市のこれまでの行政活動の結果により現在有することとなった、将来世代が負担する債務のことです。

その他には、退職手当や賞与等に係る引当金などが計上されています。

◆純資産

市のこれまでの行政活動の結果としての資産から、将来世代が負担する債務である負債を差引いた正味財産のことです。

純資産はこれまでの世代の負担によって蓄積された、将来世代が利用可能な資源の価値であると考えられます。

純資産合計とその内訳の固定資産等形成分と余剰分(不足分)は、「純資産変動計算書」の本年度末純資産残高に連動します。

全体行政コスト計算書

自 令和 4年4月 1日
至 令和 5年3月31日

科目	金額
経常費用	30,292百万円
業務費用	13,800百万円
人件費	2,789百万円
職員給与費	2,083百万円
賞与等引当金繰入額	190百万円
退職手当引当金繰入額	0百万円
その他	516百万円
物件費等	10,353百万円
物件費	6,300百万円
維持補修費	535百万円
減価償却費	3,518百万円
その他	0百万円
その他の業務費用	657百万円
支払利息	162百万円
徴収不能引当金繰入額	2百万円
その他	492百万円
移転費用	16,492百万円
補助金等	12,832百万円
社会保障給付	3,506百万円
他会計への繰出金	0百万円
その他	154百万円
経常収益	2,069百万円
使用料及び手数料	1,523百万円
その他	546百万円
純経常行政コスト	28,223百万円
臨時損失	34百万円
災害復旧事業費	16百万円
資産除売却損	18百万円
臨時利益	15百万円
資産売却益	15百万円
その他	0百万円
純行政コスト	28,242百万円

翌会計年度に支払われる期末勤勉手当等の本会計年度勤務実績分の支出見込額

本会計年度末で全職員が自己都合により退職すると仮定した場合の退職手当支給総額から退職手当組合積立金及び運用益を控除した額

建物や工作物などの償却資産は、利用可能とされる年数(耐用年数)の間に価値が目減りしていくが、その本会計年度分の目減り額

将来において発生が懸念される未収金・長期延滞債権に係る不納欠損額について、過去の徴収不能実績率より算出した見込額の本会計年度増額分

「行政コスト計算書」とは、会計年度中の市の費用と収益の取引高を明らかにし、行政コストについての情報を示すものです。

【費用とは】

資産形成や地方債元金償還に関わる経費を除く、行政サービスを提供するための経費をいいます。国民健康保険や介護保険などの保険給付費は、移転費用の補助金等に計上しています。

【収益とは】

税込等や国県等補助金といった直接的な対価性のない収入を除く、行政サービスの対価としての使用料や手数料、あるいは財産収入や諸収入など通常の事業過程で得られた収入をいいます。国民健康保険税や介護保険料などの保険税収入は税込等として、「全体純資産変動計算書」に計上しています。

費用や収益には、発生主義による減価償却費や徴収不能引当金繰入額などの現金支出を伴わないコストが含まれるとともに、取引高は貸借対照表の勘定科目である各引当金や未収金、未払金などとの仕訳処理がなされたものとなっており、これまでの現金主義による歳入歳出決算書では見えにくかった行政コストの情報を、より適正に把握することが可能となっています。

この計算書で算出された純行政コストは、「純資産変動計算書」に連動します。

全体純資産変動計算書

自 令和 4年4月 1日

至 令和 5年3月31日

科目	合計	固定資産 等形成分	余剰分 (不足分)
前年度末純資産残高	54,887百万円	90,025百万円	△ 35,138百万円
純行政コスト(△)	△ 28,242百万円		△ 28,242百万円
財源	28,130百万円		28,130百万円
税金等	15,885百万円		15,885百万円
国県等補助金	12,245百万円		12,245百万円
本年度差額	△ 112百万円		△ 112百万円
固定資産等の変動(内部変動)		△ 1,448百万円	1,448百万円
有形固定資産等の増加		1,637百万円	△ 1,637百万円
有形固定資産等の減少		△ 3,568百万円	3,568百万円
貸付金・基金等の増加		1,570百万円	△ 1,570百万円
貸付金・基金等の減少		△ 1,087百万円	1,087百万円
資産評価差額	△ 4百万円	△ 4百万円	
無償所管換等	15百万円	15百万円	
その他	15百万円	△ 30百万円	45百万円
本年度純資産変動額	△ 87百万円	△ 1,468百万円	1,380百万円
本年度末純資産残高	54,800百万円	88,558百万円	△ 33,758百万円

※ 理解しやすくするために実際の表を調整しています。

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

「純資産変動計算書」とは、会計年度中の市の純資産及びその内部構成の変動の情報を示すものです。

純資産の増加要因としては、税金等や国県等補助金の財源の固定資産等形成分への流入、有価証券等の時価評価差益、寄付等による資産の無償取得、過年度取得資産に係る固定資産台帳価格の修正(増加)などがあります。

純資産の減少要因としては、有価証券等の時価評価差損、資産の売却(元本分のみで売却差額は臨時損益として費用計上)や除却、過年度取得資産に係る固定資産台帳価格の修正(減少)などがあります。

この計算書で算出された本年度末純資産残高とその内訳の固定資産等形成分と余剰分(不足分)は、それぞれ「貸借対照表」の純資産合計とその内訳に連動します。

【固定資産等形成分とは】

資産形成のために充当した資源の蓄積をいい、原則として金銭以外の形態(固定資産等)で保有されます。具体的には貸借対照表の固定資産と短期貸付金、基金の合計となります。

【余剰分(不足分)とは】

市の費消可能な資源の蓄積をいい、原則として金銭の形態で保有されます。具体的には、貸借対照表の純資産額合計から固定資産等形成分を差し引いた額です。

【固定資産等の変動(内部変動)とは】

有形固定資産等または貸付金・基金等の増加については、これらの資産を取得するための支出の財源が「余剰分(不足分)」から「固定資産等形成分」に振替えられたことを示します。

逆に、有形固定資産等または貸付金・基金等の減少については、これらの資産の減少額または減価償却費相当額の財源が「固定資産等形成分」から「余剰分(不足分)」に振替えられます。

この内部変動に関する情報を加えることによって、純資産計算書における財源情報について明らかにすることができます。※付属明細書3(2)「財源情報の明細」

全体資金収支計算書

自 令和 4年4月 1日

至 令和 5年3月31日

科目	金額
【業務活動収支】	
業務支出	26,654百万円
業務費用支出	10,161百万円
人件費支出	2,784百万円
物件費等支出	6,715百万円
支払利息支出	162百万円
その他の支出	500百万円
移転費用支出	16,492百万円
補助金等支出	12,832百万円
社会保障給付支出	3,506百万円
他会計への繰出支出	0百万円
その他の支出	154百万円
業務収入	29,149百万円
税込等収入	15,471百万円
国県等補助金収入	11,677百万円
使用料及び手数料収入	1,519百万円
その他の収入	482百万円
臨時支出	22百万円
災害復旧事業費支出	16百万円
その他の支出	5百万円
臨時収入	0百万円
業務活動収支	2,474百万円
【投資活動収支】	
投資活動支出	3,107百万円
公共施設等整備費支出	1,544百万円
基金積立金支出	1,456百万円
投資及び出資金支出	0百万円
貸付金支出	107百万円
その他の支出	0百万円

科目	金額
投資活動収入	1,844百万円
国県等補助金収入	694百万円
基金取崩収入	1,010百万円
貸付金元金回収収入	107百万円
資産売却収入	22百万円
その他の収入	11百万円
投資活動収支	△ 1,263百万円
【財務活動収支】	
財務活動支出	1,927百万円
地方債償還支出	1,927百万円
その他の支出	0百万円
財務活動収入	999百万円
地方債発行収入	984百万円
その他の収入	15百万円
財務活動収支	△ 928百万円
本年度資金収支額	283百万円
前年度末資金残高	2,461百万円
-	-
本年度末資金残高	2,744百万円

前年度末歳計外現金残高	13百万円
本年度歳計外現金増減額	△ 2百万円
本年度末歳計外現金残高	11百万円
本年度末現金預金残高	2,755百万円

※ 理解しやすくするために実際の表を調整しています。

※ 下位項目との金額差は、単位未満の四捨五入によるものです。

「**資金収支計算書**」とは、会計年度中における市の現金の収入(歳入)と支出(歳出)の収支を、業務活動収支・投資活動収支・財務活動収支の3つの区分に分けて、資金の利用や獲得状況に関する情報を示すものです。

この区分けによって、投資活動収支では公共施設等の整備を積極的に行っている、基金を多く取り崩しているなどの状況を、財務活動収支では地方債の発行や元金償還の状況などを読取ることができます。

なお、「行政コスト計算書」には、発生主義による現金支出を伴わないコスト等が含まれていますが、「資金収支計算書」では現金の収支のみが記載され、また出納整理期間中の取引により発生する資金の受払いも含むことから、「本年度末資金残高」は「歳入歳出決算書」の「歳入歳出差引残額」と一致します。

この計算書で算出された本年度末現金預金残高は「貸借対照表」の現金預金に連動します。

【業務活動収支とは】

行政サービスの提供に関する経常的・臨時的な行政活動に伴う資金収支をいいます。

【投資活動収支とは】

公共施設整備や基金積立・取崩など、市の資産の増減に伴う資金収支をいいます。

【財務活動収支とは】

地方債発行や元金償還など、市の負債の増減に伴う資金収支をいいます。